

一般社団法人朝霞地区薬剤師会

# あさやくだより

第16号

(一社)朝霞地区薬剤師会

発行人: 広報委員長 細川 玄機

〒351-0021朝霞市西弁財1-10-21-312号

TEL: 048-483-4125 FAX: 048-483-4126

asaka-ph@asakaph.or.jp

## 会長挨拶

令和4年6月23日午後6時より第8回一般社団法人朝霞地区薬剤師会定時社員総会が開催されました。社員総数204名、出席者、委任状、議決権行使書の議決権の総数138名で、すべての議案が承認されましたことをご報告いたします。

2021年度については、のちに振り返った時にきっと忘れられない年度になったと思いますし、その結果として会計上にも足跡が残せたことは、災いと戦う私たち薬剤師を表現したとも感じています。1年間多くのご協力を賜りありがとうございました。

さて、いよいよ新年度の活動が始まりました。総会資料でもお示した通り、事業計画は山積みの状態です。今年度は次世代に繋ぐ年として、各委員会に副会長を置き理事会へのオブザーバー参加も可能にしました。この1年、どんな年になるか楽しみでもあります。

課題もあります。当地区の「健康サポート薬局」「地域連携薬局」「専門医療連携薬局」の数が伸びないことです。現在、健康サポート薬局9軒(県全体192軒)、地域連携薬局9軒(県全体174軒)という状況です。専門医療機関連携薬局においては県内では6軒ですが、当地区はまだ登録がありません。昨年8月の薬機法改正から開始された地域連携薬局は登録の伸びも著しく、やはり今必要とされる認定と考える薬局が多いのだと思います。健康サポート薬局に比べハードル

は若干低いとも思いますので、ぜひ多くの薬局にトライしていただきたいと思います。特に当地区では、休日夜間対応薬局についてホームページに掲載し情報更新しており、QRコードで閲覧できるようになっています。QRコードは、各市の広報誌にも掲載されており、病院及び医療機関にはポスターを配布し掲示をお願いしています。会員薬局は地域で公表される休日当番に参加することで認定条件に合致しますので、是非利用ください。今年度は地域連携薬局認定のための講習会なども企画し、推進を支援したいと思っています。

その他、日本薬剤師研修センターの新しいツールであるPECSを利用した研修会、フォーミュラリ、疑義照会同意書、ポリファーマシー事業などにおける地域連携の推進も待たなして進めています。災害対策も忘れてはなりません。また、今年度は健康まつりや市民フォーラムの企画も出てきており、相変わらず感染への注意や対策は必要ですが、多くの方の参加も期待したいところです。

ますます元気な朝霞地区薬剤師会の事業には、皆様のご協力が必須ですので、何卒よろしくお願いいたします。

代表理事 畑中 典子・かくの木

← 休日開局薬局情報はこちら



## 学校薬剤師委員会より

朝霞地区薬剤師会は、公立小・中学校の学校薬剤師について朝霞市・新座市・志木市・和光市と契約を締結しています。そのため、地区薬剤師会の会員であることが条件で、現在30名いる学校薬剤師は全員会員となっています。また、学校薬剤師は、埼玉県薬剤師会、日本薬剤師会からの情報を速やかに伝達するとともに、各種講習会に参加するなど子供たちの環境衛生に尽力することが求められています。そこで県内の学校薬剤師はぜひ日薬・県薬の会員になっていただきますようご協力をお願いいたします。

朝霞地区薬剤師会学校薬剤師委員会は、2021年度に新たに2つの方向を定めました。1つは75歳をめどに次の世代に職務を繋ぐこと。2つ目は公立小・中学校の担当は一人2校までとすることです。今後は、できるだけ多くの若い方に引き継いでいただけるようこちらもご協力をお願いいたします。

他に、高校や幼稚園、養護学校にも学校薬剤師がいます。朝霞地区薬剤師会としては、すべての教育現場と引き続き情報を共有していきたいと考えています。

監事・学校薬剤師委員長

渡邊 美知子・あさか台わたなべ薬局

以下の6名の先生方が2021年度をもって学校薬剤師を退任されました。長年にわたり学校薬剤師としてご尽力くださったことに心より感謝申し上げます。

新座市	小田 美好	先生
朝霞市	蕪木 秀夫	先生
朝霞市	松永 純子	先生
志木市	相神 和子	先生
志木市	永井 千恵子	先生
志木市	吉沢 晴光	先生



## ワクチン接種支援事業について (お礼)

昨年5月にスタートした朝霞市、和光市、新座市3市へのワクチン接種支援事業は、4月～5月の和光市での支援(5～11歳対象)をもって、すべて終了しました。

ご協力くださった薬剤師の人数はのべ1,800名にもなり、その規模に驚くばかりです。ご参加・ご協力くださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。

常務理事 清水 勝子・新倉健康薬局



**2022年度新座市委託事業「重複・頻回受診者、重複投薬者等への相談・指導事業」が始まります！**

朝霞地区薬剤師会は、2018年、2019年に埼玉県委託事業として、「多職種連携による薬剤師・薬局のかかりつけ機能の強化推進事業」（薬局薬剤師によるポリファーマシー対策）を実施した経験があります。

10種類以上の薬剤を併用されている患者さんは、多科受診も原因の一つではありますが、今回の事業では同一疾患での重複・頻回受診や同一成分の薬剤が重複処方されているケースに着目しています。国保データベース（KDB）システムを利用して該当患者を特定し、患者の同意の上薬剤師が患者宅を訪問し、相談・指導を実施します。

対象者は①3ヶ月連続して1ヶ月に同一疾患で受診医療機関が2カ所以上あり、訪問指導を要すると認められたもの。②3ヶ月連続して1ヶ月に同位置疾患で受診日数が15日以上あり、訪問指導を要すると認められたもの。③3ヶ月連続して、複数の医療期間で同じ薬剤師を処方されており、訪問指導を要すると認められたもの。

実施方法は、①高齢者医療制度被保険者抽出データ（KDBシステム）。②訪問する理由、訪問の日にちを書いた案内状を送付。③訪問期間内に訪問。

実施内容は、◆薬剤師が訪問し適正受診・適正服薬の促進、かかりつけ医、かかりつけ薬局を勧め、重複投薬、多剤服薬による薬物有害事象の防止及び医療費の適正化を図る。

◆健康状態の確認、生活習慣改善についての指導を実施する。

後期高齢者医療制度被保険者全体数22,347人からデータを抽出します。抽出期間は2021年12月～2022年2月の3ヶ月間です。（除外対象あり）

訪問実施期間は7月25日～8月末日頃となります。相談実施月の次月の受診、処方薬のレセプト結果を確認します。また、患者本人の感想、反応などアンケートも実施します。

この事業を実施するにあたり、薬剤師会では、新座市重複支援事業部会を立ち上げました。現在部会が中心となって準備を進めています。ご質問や詳細については、薬剤師会が対応いたします。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

副会長 須田 友子・須田薬局本店



**朝霞市から「表彰状」いただきました。**



5月22日、朝霞市民会館（ゆめばれす）において、朝霞市市制施行55周年記念式典が開催されました。式典では、保健衛生功労表彰として、渡邊美知子監事をはじめ、大澤研二さん、蕪木秀夫さん、藤原艶子さん、藤本廣子さん、松永純子さん、社会福祉功労表彰として松永仁名管理理事、大八木実理事、村越達子さんら、9名の会員がその功績を称えられ、表彰状が贈られました。

**朝霞地区薬剤師会との「疑義照会に関する合意書」の締結について**

昨年度からTMGあさか医療センターでは、2024年から始まる「医師の働き方改革」に向けてタスクシフト/タスクシェアを検討しており、院内処方箋については、医師・薬剤師の負担軽減を目的に「疑義照会簡素化プロトコル」を作成し導入しています。外来処方箋についても、従来より調剤薬局からの問い合わせが多かったことに加えて、昨年から続く後発医薬品の出荷調整の影響により、後発医薬品から先発医薬品への変更に関連する問い合わせが激増し、外来診療における医師や医療スタッフ、調剤薬局の業務を圧迫しはじめ、外来スタッフから改善に向けての相談や調剤薬局からも疑義照会簡素化の相談を受けていました。

そんな状況の中、2022年3月に朝霞地区薬剤師会の地域連携委員会に参加した際、埼玉病院と朝霞地区薬剤師会の間で「院外処方箋における問合せに関する同意書」を締結したことを知りました。当院も薬剤師会と合意書を交わすことで、広く地域の調剤薬局に周知することができ、また、埼玉病院と同じ内容にすることで調剤薬局は処方元の病院によって対応を変える必要がなくなります。双方にとってのメリットしかないと考え、直ちに朝霞地区薬剤師会の畑

**TMGあさか医療センター 薬剤部 小林 重光**

中会長に相談したところ、迅速に対応していただき4月28日にTMGあさか医療センターと朝霞地区薬剤師会の間でも合意書が締結されました。

導入から約2か月を経て、調剤薬局からは電話による問い合わせが減ったとのことですし、処方変更に係る医師への情報提供はお薬手帳を利用することを原則としているため、FAXによる情報提供も減少しました。更にホームページ等で合意書の締結を周知させたいと考えています。

また、今年度から、地域連携委員会の中にP B P M部会が立ち上がりましたので、この「院外処方箋における問合せに関する同意書」をさらに地域の病院に広げて、病院外来診療と調剤薬局の負担軽減につながればと考えております。

院外処方箋における問い合わせに関する合意書はこちら！





## 朝霞地区薬剤師会 青年部活動報告

2022年4月、正式にスタートした朝霞地区薬剤師会青年部のこれまでの活動を紹介します。

### ① 交流会

青年部最初のイベントは、オンラインでの交流会でした。発足メンバーで話し合い、事前にお弁当を宅配サービスに依頼、当日は家族参加OKのオンラインビンゴも行いました。初めてのイベント開催には不安もありましたが、会員同士の会話もよく弾み、とても楽しい会となりました。

次は、ボーリング会+懇親会を開催予定です♪



### ② ミニ症例検討会

毎月第4水曜日に30分程度のミニ症例検討会を行っています。薬局で気になった症例、トレーシングレポートなどの情報を共有し、その後の質疑応答では、意見や議論の交換もあり有意義な会となっています。

ちょっと覗いてみたい！参加したい！という方は、ぜひ青年部にご入会ください。現在、入会金、年会費無料です♪

青年部副リーダー 江口 武幸・アトム薬局

青年部ホームページはこちら↓



## 2022年度実務実習 1期集合研修「ワールド・カフェ」印象記 4月21日開催

城西大学 竹村 かえて

この度は、このような研修の機会を設けてくださりありがとうございました。

健康サポート薬局のあるべき姿について考えた時に、OTCの対応や、セルフメディケーションスペースの設置により地域の方が自分の健康を目で見て把握しその結果で薬剤師が食事や生活面でのアドバイスを行うなどが挙げられました。そして、これらを挙げていくうちに私自身が、薬剤師としてこのような情報を提供できる知識を身につけないといけないと感じました。

地域の方々に頼られる、信頼される場所を薬剤師が作ることで、地域の方々も安心して暮らしていけるのではないかと感じました。

また、私は資源としての役割にしか目を向けていませんでした。今回のこのテーマでのSGDで、健康サポート薬局はつなぎとしても役割を持っていることを改めて感じました。

多職種連携という言葉は大学でも学びましたが、それを実際に行うには、他職種についてちゃんと理解すること、他職種の方々と顔を合わせて知り合うことが大切だということを今回のワールドカフェで学びました。

ケーススタディでは、同じグループの実習生の方の意見や指導薬剤師の方からのアドバイスで、新たに気づく視点や考えに気づくことができました。

一つの相談でも、そこにある問題点や心配事はいくつもあって、それに気づけることが大切だと学びました。

また、いろんな視点での問題点や心配事を挙げて、それを解決できる他職種を考えた時にわからないことが多かったので、まだ他職種についての理解ができていないと実感しました。

今回のワールドカフェで、薬剤師として地域の方々にできることはたくさんあると感じたし、地域の方々に信頼されるためには自分自身がちゃんと知識をつけて発信していかないと感じました。

そうした薬局薬剤師としての在り方を認識して、今後に繋がっていききたいと思います。

星薬科大学 中田 海音

この度は、朝霞地区実務実習集合研修参加させていただき、他大学の同期と話し合う機会を持った事は本当に貴重な経験で、有意義な集合研修となりました。

学校薬剤師の体験で2回会ったことのある人達でしたが、他大学の学生と話し合いは初めてだったため、最初は不安を感じていました。ですが、いざ始めてみると多くの意見が飛び交ってみんな自然と熱くディベートができていたと思いました。

私とは異なった視点で物事を見ている人や、同じ視点から物事を見ているもさらに掘り下げて考えている人がたくさんいてとても刺激的な集合研修であると同時に自分の未熟さを痛感する集合研修でもありました。話し合いをする事や、話し合ってから考えた事は今後必ず薬剤師として社会に出てから生きてくると感じます。

集合研修を行なって、健康サポート薬局のあるべき姿や地域包括ケアシステムの現状と今後の課題についてたくさん勉強させて頂きました。また、ケーススタディで培った解決方法の探し出し方や考え方は薬剤師になる上でとても大切な事だと思いました。

実習中に介護施設への往診同行を行っているため、この集合研修を行った前後で違った角度で物事を見れるようになったと感じました。

このような体験を今後薬剤師として患者のためにチーム医療の一員になり、活かしていきたいと思いました。また、今後進む進路は異なりますが、同じ薬剤師として社会に貢献していく仲間に出会えて繋がれた事をとっても嬉しく、今後も大切にしていきたいと感じます。

この集合研修を通して、質の高い薬剤師になるためには、定期的にこのような意見交換の場を設ける事が大切だと思いました。たくさん意見を出し合う事で柔軟に物事を捉える事ができる薬剤師になれると感じました。

最後になりますが、このような貴重な経験を設けてくださった関係者の皆様と集合研修参加者の皆様に心より感謝申し上げます。

おすすめの本

薬草ハンター、世界をゆく  
義足の女性民族植物学者、新たな薬を求めて

カサンドラ・リア・クウェイヴ 著、駒木令 訳（原書房/2022）



著者は1978年の生まれです。幼い頃から、義足の接合部分の感染症に悩まされてきました。その経験もあり、医学の道に進んでからは、多剤耐性菌に使える抗菌物質を世界中の薬用植物の中から探索するプロジェクトを立ち上げます。障害やジェンダー、予算といった壁にぶつかりながらも、その都度並外れたバイタリティをもって乗り越えていきます。

けっこう生々しいことが書かれていますが、著者の人柄か、嫌味がなく楽しく読めます。

広報委員 田代 健・地球堂薬局

たった12週間で天才脳を養う方法

サンジェイ・グプタ著 伊藤 理恵 訳（文響社/2021）



邦題だけ見ると限られた一部の方向けの本と思われがちですが、脳の健康を保ち、認知症や認知機能低下を予防するためのアドバイスが豊富で、多くの方におすすめできる内容です。

運動・学習・睡眠・食事・人とのつながりなどのカテゴリーがあり、情報が偏っておらず、人によって適したものを選ぶことができるの

も良い点で、そのアドバイスは科学的根拠に基づいた質の高いものです。

12週間のプログラムは具体的でわかりやすく、その行動の必要性は各章で十分説明されているので、取り組みへの意欲も湧きやすいのではないかと思います。

広報委員 酒井 清貴・なぎさ薬局あさか店

コラム

ある日の電車で...

ある日の午後、池袋からの電車に乗った。座席には空席が見える程度だった。電車が発車し、私は買ったばかりの本を広げたところである。そこに、キーッと子どもの叫び声が。ドア近くの、バギーに乗った2～3歳くらいの男児である。若いお母さんはしきりにあやしているが、何が不満かキーキーは収まらない。

車内の雰囲気は次第に険悪になってきた。目は活字を追うが、意味は不明である。そろそろ限界かなと立ち上がり、バギーの横に立つ。「どうしちゃったのかな・・・？」と声をかけ、しゃがみこんで目線を合わせる。「あれあれ、いないいないばあっ！」

一瞬ひるんだようだが、泣き止む様子はない。次のパターンである。ちょっとこっちを向いた。二つ三つ、泣き半分、こちら半分となった。五つ六つのバージョンを駆使するうちに、笑顔も出てすっかりご機嫌は治ったようである。降車駅では、バイバイしながら降りて行った。

変なおじさんだったかな・・・？

でも、幸せなひと時だった。



広報委員 小暮 眞一郎・アサヒ堂薬局

俳句を楽しむ



松永 仁淡  
（名誉理事 松永仁  
松栄堂薬局）

コスモスの中に消えゆく鬼ごっこ

梅雨明けし青空森の深み増す

花冷えや仕事に向かふ足重し

よき場所を猫に譲りて日向ぼこ



編集後記

私が学生の時、まだ薬学部は4年制で、もちろん実習はカリキュラムにはなく、希望者のみが直接病院や薬局に交渉して2週間の実習をさせていただいた事を覚えています。その後6年制になり、カリキュラムも変わり、現在私の勤務している薬局にも実務実習の学生が1名きています。はじめは緊張がこちらにも伝わり、気の毒に思う事もありますが、毎日一生懸命に取り組んでいる姿をみて、患者さんから応援のことばをいただき、本人も成長を感じて自信をつけ、緊張もほぐれて実習は進んでいきます。

いつも実習の後半に行うワールドカフェの様子や印象

記を拝見して、学生のみなさんがそれまで実習で学んできた事をいかして討議を行い、新たな発見をしている事にいつも感心しています。

そして私自身も11週間の実習を通して、学生から多くを学ばせてもらっています。それぞれ希望する進路は異なると思いますが、菅沢薬局で実習をしてよかったと感じてもらえるよう、これからも薬局メンバーと一緒に学生実習に取り組んでいきたいと思っています。

広報委員 磯村 和美・かくの木菅沢薬局

会報「あさやくだより」バックナンバーはこちら→

